

# 第4章 緑の目標と将来像



## 千曲市の緑の目標

### 基本 理念

## 人と自然が豊かに織りなす、 未来へ継ぐ、緑の千曲市

本市は、大林山、冠着山、三峯山や鏡台山等の東西の山地に囲まれ、市の中央を雄大な千曲川が南北に流れ、姨捨棚田やあんずの里等に代表される農地にも恵まれた自然豊かな地です。

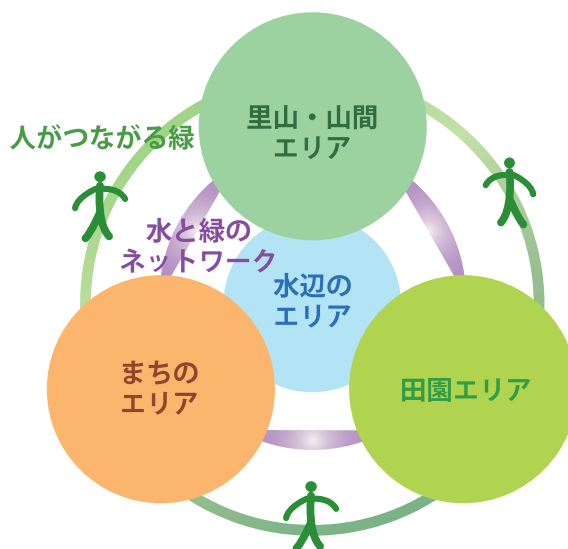
豊かな自然を背景に縄文時代より人が暮らし続け、近世からは交通の要衝としてまちが発展しました。由緒正しい社寺林や歴史の面影を残す宿場町、暮らしと自然の深い関わりによって培われた里山などの緑は、歴史文化を感じられる市の大切な財産であり、心の潤いに大きな役割を果たしています。

暮らしに潤いを与える緑、人の想いが込められた緑、多様な命があふれる山河の緑は、人と暮らしの関係の中で無くてはならないものとなっています。

「千曲市緑の基本計画」では、基軸を成す千曲川や豊かな里山空間、歴史ある田園空間、千曲川の流域に発展したまちの空間といった緑の特性を活かすため、それぞれの特色ある4つの緑のエリアに合わせた施策の展開と、それらをつなげる水と緑のネットワークの形成を図り緑豊かな千曲市を目指します。

市民・事業者・行政が力と知恵を合わせ、時とともに育つ、心地よい緑の育成を目指し「人と自然が豊かに織りなす、未来へ継ぐ、緑の千曲市」を緑の基本理念とします。

また本計画では、緑の要素として、里山などの自然的緑と、まちなかの都市的緑に加え、緑を育成・保全する人々も重要な緑の要素として位置づけています。



## 千曲川の水辺と山地の緑をつなげる目標



図-33 千曲川との関係性をつくる緑のつながり

千曲川は川幅が広く、まちの交通やまとまりを分断する要素とも捉えられますが、反面、その自然、景観やオープンスペースを市民に与えてくれる、重要なシンボルにもなっています。市の魅力を高めるためには、このシンボル性は積極的にまちづくりに活かしていく必要があります。

本計画では、千曲川を緑のまちづくりにも取り入れ、山地とまちの間のつながりを重視して行きます。

千曲川と山地の関係性を考えると、次のような景観や水辺、緑のつながりが見えてきます。

- ・ 千曲川の拠点と山までの景観的なつながり  
(例えば、平和橋～姨捨棚田～三峯山の自然)
- ・ 千曲川の拠点と山までの水辺としてのつながり  
(例えば、雨宮緑地周辺～沢山川～屋代たんぼ～あんず樹園地～五里ヶ峯の自然)
- ・ 千曲川の拠点と山までの緑のつながり  
(例えば、千曲橋～街路樹～屋代駅～一重山)  
※一重山への山アテ街路樹として景観としてもつながっています

## 緑の目標

本計画における基本理念を念頭に、緑の将来像を目指すため、環境保全・改善機能、防災機能、レクリエーション・心の快適さに関わる機能、景観形成機能、生物多様性の保全機能の5つの緑の機能に対応した緑の目標を定めます。

この緑の目標を目指し、エリアの特性に応じた目標、緑のまちづくりのために必要な協働と参画の目標を定めます。

目標 1 自然を守り、  
緑豊かなまちをつくる

目標 2 災害に強く、  
安心できるまちをつくる

目標 3 緑とふれあう  
楽しいまちをつくる

目標 4 緑豊かな  
美しい景観をつくる

目標 5 多様な生態系を守る  
緑を育む

## 緑のまちづくりにおける協働と参画の目標

### 緑を楽しむ心を育成する協働と参画の推進

少子高齢化社会の中で、豊かな緑を次世代に引き継ぐために、市民・事業者・行政の協働が求められています。

緑を楽しむ心を育てながら、緑がつなぎ手となる協働と参画を進め、時代を超えて共有できる豊かな緑の育成を進めます。

里山、農地、水辺、街路樹・公園等、それぞれの緑のまちづくりや緑の育成・維持・管理に対して、市民の自発的な参画を進めることで、市民の豊かな心が緑を支えられるようになります。また、緑を楽しみ育てるひとづくりを進め、将来に渡って緑を支える仕組みづくりを目指します。

さらに、緑の育成に必要な6つの仕組みを踏まえながら、協働と参画を進めていきます。

- 緑の課題を発見し共有できる仕組みづくり
- 緑の課題解決への仕組みづくり
- 緑を将来に渡って支えられる維持管理の仕組みづくり
- 緑を楽しみ、深く知る学びの仕組みづくり
- 緑の将来像を共有する仕組みづくり
- 緑に関する活動や施策を評価できる仕組みづくり

## 里山・山間エリアの目標

### 多様な生態系と人を育む、豊かな森を守る

緑の骨格となる里山や山林は、市民みんなで守り育てることによって、水資源を確保し、希少種を含めた多様な生き物の生息環境をより良く次世代につなげます。

自然災害を防止し、バイオマス<sup>※</sup>エネルギーや里山を利活用し、市民の憩える森を守ります。

## 田園エリアの目標

### 原風景となる田園空間を守り育む

古くから米の名産地であり、市のシンボリック的存在ともなっているあんずなどの果樹栽培が盛んな田園エリアでは、歴史や文化を伝承・育成しながら、大きな特徴ともなっている農地の広がりを大切に保全します。

## まちのエリアの目標

### 都市活動を彩る美しい緑を守り育む

多くの市民が居住し、働くまちのエリアは、市民の心が表現されるような充実した緑を市民と共に育てます。住宅地、工業地、商業地（商業・温泉観光地）といった土地利用に応じ、歴史も感じられる魅力ある緑の形成を目指します。

## 水辺のエリアの目標

### 豊かなふるさとの水辺を守り育む

千曲川の広大な河川敷と共に、流れ込む支流の河川・水路やため池といった水辺生物の生息環境を保全します。

緑のつながりを持たせながら、市民のふるさとの親水空間の形成を目指します。

## 水と緑のネットワークの目標

### 地域の一体感を高め、多様な生き物が共生する 水と緑のネットワークの形成

親水空間や、街路樹、住宅地の緑をつなげ、生物多様性の保全に向けた水と緑のネットワークの形成を目指します。

# 緑の将来構造

緑の目標を踏まえ、基軸としての千曲川、農地や山林の豊かな自然、まちの歴史や都市活動を考慮し、本市の魅力をもつ緑の将来像に向けた、緑の将来構造を示します。



**エリア凡例**

- 豊かな山の緑のエリア**  
森としての生態系の保全や、自然災害にも強い山林の育成・保全を図るエリアです。
- 豊かな農地が広がる田園エリア**  
豊かな農地を保全し、農地に生息する多様な生物を保全し、優れた農地景観を形成するエリアです。
- 豊かな緑のまちのエリア**  
暮らしや商業、工業等の人間の生活において潤いのある豊かな緑の形成をおこなうエリアです。
- 親水性のある水辺のエリア**  
水辺の親水性を高め、生物多様性の保全を図るエリアです。

**緑の拠点・ネットワーク凡例**

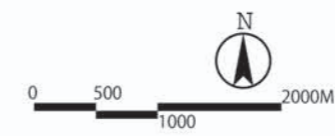
**緑の拠点**

- 特に大切に自然ゾーン**  
県立自然公園や郷土環境保全地域をはじめ、貴重な動植物の保全や、自然災害にも強い山林の育成・保全を図るゾーンです。
- 森林や里山を楽しむ拠点**  
大池市民の森周辺や一重山周辺、戸倉宿キティパーク等の森林や里山を保全し楽しむ拠点です。
- 特に大切な特徴ある農地**  
姨捨棚田、屋代たんぼ、森・倉科あんず樹園地といった景観的にも特に重要な農地です。
- 千曲市のゲートとなる緑の拠点**  
鉄道駅や更埴などに千曲市の玄関口となる緑の充実が求められる拠点です。特に屋代駅周辺は千曲市中心市街地の玄関口としての緑を形成する拠点です。
- 千曲市を代表する拠点的公園**  
更埴中央公園、科野の里歴史公園、稲荷山公園や治田公園など比較的大規模で多くの市民に共有される公園です。
- 文化を感じる緑の拠点**  
あんずホール等の千曲市の公共施設のシンボルとなる緑です。
- 温泉街もてなしの緑の拠点**  
戸倉上山田温泉街のおもてなしを感じられる景観を形成する緑の拠点です。
- 水辺の緑の拠点**  
千曲川河川敷の緑地、橋梁周辺部や若宮あんず樹園地など親水空間としての緑や緑の景観を形成する拠点です。

**水と緑のネットワークの要素**

- 緑のシンボルロード
- 緑の街路ネットワーク
- 歴史と文化を感じる緑の集落
- 旧街道沿いの歴史を感じる緑のネットワーク
- 親水性のある水辺のエリア/水辺のネットワーク
- 千曲川を飾る街路樹ネットワーク

図-34 緑の将来構造図



## 目標とする指標

緑を守り、つくり、育て、自然と共生する千曲市の緑のまちづくりを進め、緑の将来像を目指すため目標となる指標を設定します。

### (1) 緑地の確保目標

本市の用途地域内の緑地(樹林や農地、水辺、都市公園などの施設緑地等)の割合は、31.7%で、国が市街地の緑地目標水準としている割合の30%「緑の施策大綱(平成6年7月)」を超えているため、現状の緑地面積を維持し、緑の質の向上を図ります。魅力を高めるデザインされた緑、安全安心な暮らしを支える緑、環境にやさしい緑などを市民と共につくり、引き継いでいきます。

農地に関しては、農業の活性化や市民農園の提供といった活用策を検討し、心地よい農業空間が将来的にも保全されるよう市民の知恵と力を結集しながら、市街化の進行との調整を図り農地面積の維持保全を目指します。

### (2) 都市公園等施設緑地の整備目標

市民の憩いの場となる都市公園などの施設緑地に関しては、協働と参画による維持管理を進め、質の向上と緑地面積の確保を図り、市民のコミュニケーションの場として身近で豊かな緑の保全を目指します。

また、公園不足エリアの解消も考慮し、公園の整備についての目標を定めます。

都市公園の市民1人あたりの面積 14.5㎡

### (3) 水と緑のネットワークの形成に向けての目標

水と緑のネットワークの形成に向けて、緑陰のある心地よい歩行空間の整備や街路樹の整備により市街地における緑のネットワーク形成を図り、緑がより豊かに感じられる街路樹の形成を目指します。

### (4) 緑豊かなまちづくりに向けての目標

緑豊かなまちづくりに向けて、市民、事業者、行政の協働により、緑化地域、緑地協定の設定を図ると共に市民農園の開設数の増加を目指します。

### (5) 豊かさを感じる緑に向けての目標

市民アンケートによる「緑が豊かと答える割合」は市全体で70.2%(平成23年調査)です。

緑の基本計画の総合的な指標として、緑の保全を行い、質を高めることにより、緑がより豊かだと感じる千曲市民の割合の増加を目指し、目標設定を行います。

「緑が豊かと答える市民の割合」は、85%を目標とします。